

# 1

## クリエイティブ・シンキングとは何か

▶ クリエイティブ・シンキングとは「枠組みにとらわれない自由な発想」のこと。自由に発想を爆発させよう

### 【 新しいものを生み出す思考プロセス 】

クリエイティブ・シンキングとは「枠組みにとらわれない自由な発想」のことをいいます。ロジカル・シンキングが重視する様々なフレームワークにとらわれることはありません。「正確さや事実よりも、楽しさやノリを大切にする」という点において「子供」が得意としています。

一方、ロジカル・シンキングとは「一定のプロセス、フレームワークに従って（論理的に）物事を整理・分析し、考えること」をいいます。たくさん事実・データから正しい（ひとつの）答えを導き出す」という点において「大人」が得意としています。

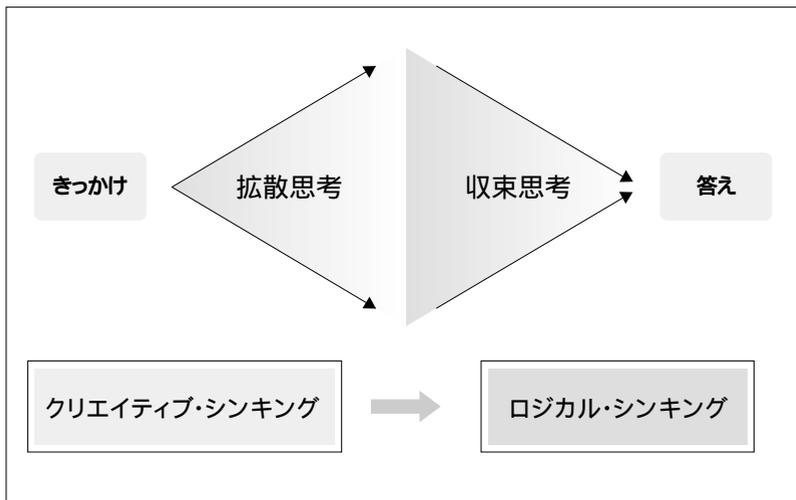
#### 拡散思考と収束思考

いいアイデアは、異なった「思考モード」をバランスよく使うことで生まれます。例えば、「新しい企画を立てる」「新製品の発想をする」時は、まず「拡散思考」で十分なアイデア出しをし、その後に「収束思考」で具体的な内容・方法に絞り込んでいくプロセスがよくとられます。

拡散思考とは、「自由奔放なアイデアをたくさん出す」思考法です。ある「きっかけ」をもとに、次々と自由なアイデアを生み出していくプロセスで、これが正に本書でいうクリエイティブ・シンキングです。

一方、収束思考とは、できるだけ多くのデータ、事実を集めて、そこから「正しい答え」を導きだそうとする思考法です。ロジカル・シンキングとは、この収束的思考のことを指します。

図1・1 新しいものを生み出すための思考プロセス



### 拡散思考で発想を爆発させる

クリエイティブ・シンキングとは熱(情熱)をもって発想を爆発(拡散)させることです。あらゆる方向にアイデアを飛び散らせます。これは、まるで「ビッグバン」によって宇宙が膨れ上がっていくプロセスのようです。膨張しきった宇宙は、再び収縮(収束)していきます。これはロジカル・シンキングの役割です。拡散する前に収縮させてしまうと魅力的なアイデアは決して生まれてきません。

特に、アイデア出しの初期段階でロジカル・シンキングに偏ると「思考を制約」「精神を抑圧」します。そのために、せっかくの「個性的な発想の芽」をつむいでしまう場合があります。

新しいものを生み出すための思考プロセスは、「制約のない自由な思考から系統立った論理的思考へ」、つまり、「クリエイティブ・シンキングからロジカル・シンキングへ」が基本です(図1・1)。

## 【 ロジックを過信してはいけない 】

最近、日本でも盛んにロジカル・シンキングの必要性が叫ばれています。「分かりやすさ」「普遍性」を重視するために、グローバル化する世の中においては特に重要視されています。国境を超えて活躍するビジネスマンにとって、筋の通った論理構成で考え、的確に事実を伝えることは、以前にも増して重要になっていることは間違いありません。

### ロジックは事実を重視する

しかし、「ロジックへの過信が生み出す危険性」も同時に認識する必要があります。なぜならロジックはすべての物事を「言語化」「単純化」「フレームワーク化」する傾向にあるからです。そのため、「感性」や「微妙なニュアンスのもの」などを扱うことをとても苦手としています。

また、ロジックの特徴のひとつに「事実（ファクト）を重視する」ことがあります。しかし、事実やデータというものは、「手に入った瞬間には過去のものとなっている」ということも自覚しなければなりません。データ収集や事実確認している間も、環境は変化しています。過去のデータによって導かれた結論は、実は「時代遅れ」になっているかもしれないのです。

### クリエイティブ・シンキングは事実にとらわれない

ロジカル・シンキングの「事実に基づく」という特性は、「未来を過去のパターンに基づいて予測しよう」という発想になりがちです。「今までこうだったから、これからもこうなるであろう」という発想です。しかし、クリエイティブ・シンキングは「事実にとらわれない」ことを特徴としています。そのために現実離れた発想が生まれる可能性がある半面、「何かを生み出そう」という前向きな発想につながりやすいともいえます。

図1・2 2つの思考法でよく使われる言葉

クリエイティブ・シンキング	ロジカル・シンキング
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 楽しい?</li><li>・ 面白いね!</li><li>・ それもいい! 他には!</li><li>・ それから連想されることは?</li><li>・ どんなイメージ?</li><li>・ プロセスが大事だから!</li><li>・ 楽しく考えよう!</li><li>・ 正しくなくていいよ!</li><li>・ 前提なんて無視!</li><li>・ 何でもありだよ!</li><li>・ モレてもダブってもいいよ!</li><li>・ 枠なんか外して!</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 論理的?</li><li>・ なぜそうなの?</li><li>・ どうしてそうなの?</li><li>・ だからそういうこと?</li><li>・ イシューは何?</li><li>・ 結論は何?</li><li>・ 本当に考えてる?</li><li>・ 何が正しい?</li><li>・ 前提は何?</li><li>・ 何が間違い?</li><li>・ モレやダブリはない?</li><li>・ フレームワークに落とし込んで!</li></ul>

言い方を変えてみると、ロジカル・シンキングが事実を重視することから、「過去～現在」という時間軸で物事を「整理」する傾向にある一方、クリエイティブ・シンキングは「整理する」「理解する」といったことよりも、「想う」ことに重きを置く点で、「現在～未来」という時間軸を中心に今までにないものを創り出していく傾向にあります。

### クリエイティブ・シンキングは常に新しい視点を探す

また、「人の思考」は、「場の雰囲気」や「個人の感情」に影響を及ぼすことがあります。これはそれぞれの思考法を進める上で、よく使われる「言葉」に注目してみれば分かることです（図1・2）

クリエイティブ・シンキングをベースにした会話では「面白いね!」「そうだね、もっと他には?」「連想して!」といった表現が多用されます。質より量、正確さより楽しさを重視しているためです。「100%の正解はな

い」「物事は相対的である」という思想のもと、「常に新しい視点を探す」ことに重きが置かれます。

一方、ロジカル・シンキングをベースにした会話では、「なぜそうなの？」「だからどういうことなの？」「それは事実？」「イシューからずれていない？」「モレやダブリはない？」「正確に分類して！」などの表現がよく聞かれます。これらは、すべての要素を論理的に把握するためのキーワードです。

注意すべきは、これらの「問いかけ」が時と場合によって「何かを生み出そうとする精神」「ワクワク感」「遊び心」を押さえこんでしまうということです。また、本来、問題を解決する「手段」として使われていたはずのロジックが「目的」となってしまうたり、論理という名のもと、言葉遊びや相手を論破することに熱中してしまうこともあります。

## 【 なぜクリエイティブ・シンキングが必要なのか 】

米国では以前から論理的に考える力が重要視されており、多くの大学や大学院入試でロジカル・シンキングが取り上げられています。

ロジカル・シンキングやクリティカル・シンキングが米国教育現場に導入された背景には、「政府などの組織に個人がだまされないようにするため」「企業コマーシャルのウソを見抜くため」といった目的もあったようです。その導入背景に他人はウソをついたり、人をだますものだという「性悪説」が一部ベースにあったともいわれています。

そんな「ロジカル先進国」ともいえるアメリカや欧州の一部の人たちからも「論理的思考」に基づいた、近年の行き過ぎた「効率化」「合理化」を反省する声がささやかれています。「ロジックで割り切れないもの」を切り捨ててきた結果、「何か大切なものもなくなってきたのではないか」という感覚を多くの人々が持っているようです。

## ロジカル・シンキングだけでは不十分

英国の社会学者エドワード・デ・ポーノは著者『水平思考』の中で欧米の近代教育における危機を次のように述べています。

「近年学校教育において思考法を学んだといえば間違いなく垂直思考（＝ロジカルシンキング）を学んだということになります。それだけでは不十分です。これからは水平思考（＝クリエイティブシンキング）を社会に根づかせる必要があるでしょう」（括弧内は著者注）

また、米国クリエイティブ・シンク社の代表フォン・イークは次のように語っています。

「アメリカにおける教育制度は、固い思考力（ロジカル・シンキング）をつける面では、非常に効果的だ。一方、柔軟な思考力（クリエイティブ・シンキング）は置き去りになっている。そればかりか近代教育は、柔軟な思考を低俗なもののように扱う傾向にある。人間の知性は複雑なものなのに、ロジックと分析に基づくものだけが知性だと考えてしまう。ロジックに基づいていない能力が評価対象となっていないのは大きな問題である」（括弧内は著者注）

近年、創造的発想法（クリエイティブ・シンキング）の必要性が叫ばれているにもかかわらず、これをカリキュラムとして採用している学校・企業は皆無といえます。

人間を狭い基準で評価し、点数をつけてきたことで、社会的なひずみも見られるようになってきました。人の数だけ考え方があり、感じ方があり、生き方があります。表面的な「正誤」だけで物事を判断するのは問題です。私たちに、「フレームワーク思考」だけにとらわれずに、もっと伸びやかに自由な発想をしてみることが求められています。

# 2

## クリエイティブ・シンキング の特徴

▶ ロジカル・シンキングとクリエイティブ・シンキング、2つの思考法を比較することで、クリエイティブ・シンキングの特徴を理解しよう

### 【 何事にもとらわれない自由な発想 】

近年では、ロジカル・シンキングに代表されるように、思考の手法に注目が集まっているため、あたかも一定のやり方やルールに従ったものだけが優れた思考であると誤解されている風潮があるようです。しかし、思考とは本来、何事にもとらわれず、「自由で」「楽しく」行われることが理想なのです。

ここではロジカル・シンキングと比較しながら、クリエイティブ・シンキングの特徴について説明していきます。

クリエイティブ・シンキングを表すキーワードには「拡散」「統合」「包括」「多元」「非直線」「水平」「イメージ」「感性」「アン・フレームワーク」「子供」「共感」「右脳」などがあります（図1・3）

**拡散的：**自由奔放なアイデアをできるだけ数多く出す

**統合的：**物事を「全体」としてとらえる（分析しない）

**包括的：**モレやダブりに気をとられない

**多元的：**正誤、優劣をつけず、絶対的な正解を求めない

**非直線的：**無秩序、カオスから何かを生み出す

**水平的：**アイデアの「正しさ」よりも「幅」を重視する

**イメージ：**言葉による定義にとらわれず、イメージも活用する

**柔軟かい思想：**頭だけでなく「感じるこゝろ」を大切にす

**アンフレームワーク：**細かく分類せず、大枠でとらえる

図1-3 ロジカル・シンキングとクリエイティブ・シンキング

ロジカル・シンキング ( Logical Thinking )	クリエイティブ・シンキング ( Creative Thinking )
収束的( convergent )	拡散的( divergent )
分析の( abalytic )	統合的( synergetic )
選択的( selective )	包括的( comprehensive )
二元的( dualistic )	多元的( multifactorial )
直線的( linear )	非直線的( non-linear )
垂直の( vertical )	水平の( lateral )
言葉の( verbal )	イメージの( visual )
思考の( thinking )	感性の( feeling )
フレームワーク ( framework )	アン・フレームワーク ( un-framework )
大人の( adult )	子供の( childish )
説得の( persuasive )	共感( sympathetic )
左脳( left brain )	右脳( right brain )

アン・フレームワーク:「枠組みを外して考える」という著者の造語

**子供：**遊び心、イマジネーションに基づいた自由な発想を行う

**右脳：**アナログ的、イメージ的、直感的な発想をする

**共感：**説得ではなく、「感じ合う体験」を共有する

それではロジカル・シンキングとクリエイティブ・シンキングの特徴をそれぞれ対比しながら見ていきましょう。

### 収束思考 vs. 拡散思考

**収束思考：**収束思考とはできるだけ多くの「データ」「事実」を集めて、そこから「正しいひとつの答え」を導き出そうとする思考法です。科学、数学などの分野においてよく用いられます。

「ひとつの正しい答えを導き出す」という特性から、「標準化しやすい思考法」ともいえます。そのため、人の思考能力をテストする時においては、ほとんどがこの「収束思考」をベースにしています。

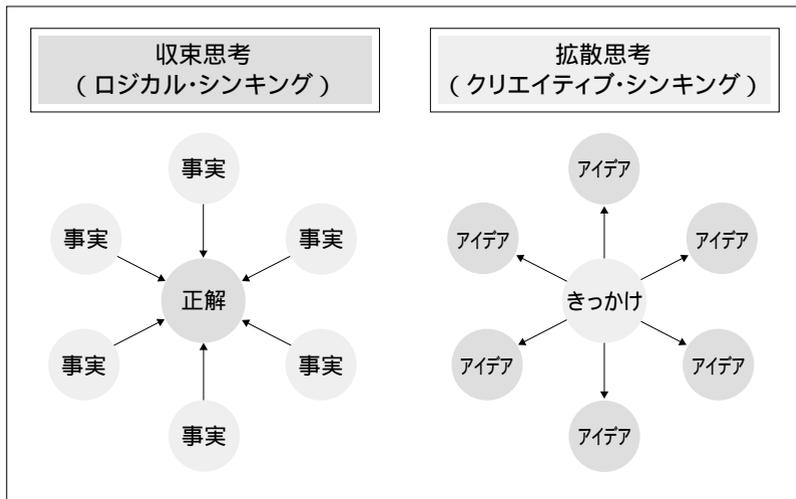
**拡散思考：**一方、拡散思考とは「自由奔放なアイデアをたくさん出す」思考法です。ある「きっかけ」をもとに、次々と自由なアイデアを生み出していく思考法のことをいいます。

拡散思考は、芸術、人文学などの分野においてよく用いられます。「人によって千差万別なアイデアが生み出される」という特性から、「標準化できない思考法」ともいえます。そのため、思考能力をテストにおいて「拡散思考」はあまり評価の対象になっていません（図1・4）。

### 分析 vs. 統合

**分析：**分析とは物事を細かく分けて、全体を構成する各要素を明らかにしていく手法です。分析の本質は、「より細かく」「より詳しく」「より正確

図1-4 収束思考と拡散思考



に」といったベクトルに向う性格があります。近代科学は、この分析を中心に発達してきたといえます。

例えば、近代西洋医学ではある領域の研究が進めば進むほど、耳鼻咽喉科、循環器内科、放射線外科のように、「局部化」「専門化」が進みます。分析的なロジカル・シンキングは、「より正確なもの」「より詳しいもの」を求める傾向にあります。

**統合：**統合は複数の要素をひとつにまとめあげていく手法です。統合の本質は、「より大きく」「より全体的に」といったベクトルへ向う性格があります。東洋思想（特に老荘思想）は、統合を核にしているといえます。

例えば、東洋医学は病気を治すために本来の免疫力・治癒力を高めることを考えます。そのため、患者を「全体的」ととらえた治療法をほどこします。統合的なクリエイティブ・シンキングはより全体的なものを求める傾向にあります。